

第137回 英語台詞が印象的だった ポップス系歌謡曲

語りや台詞(モノローグ)を一人
で演じる講談・落語などの話芸が庶
民にも浸透していた日本では、戦前
から『湖畔の宿』(歌・高峰三枝子)
などの台詞入りの歌が何曲かヒット
していますが、戦後になると、洋楽
や日本語カバー曲に影響されて作ら
れた和製ポップス系歌謡曲が私たち
を楽しませてくれました。

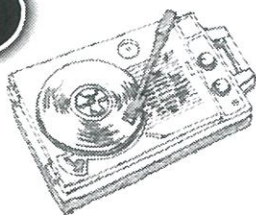
昭和32年(1957)に全米で大
ヒットしたザ・ダイアモンズの『リ
トル・ダーリン』は、間奏に入る「My
darlin', I need you」の低音モノロ
ーグが魅力になっていますが、ロカ
ビリー全盛時代の翌33年に、伊藤素
道とリリオ・リズム・エアーズや平
尾昌章らによってカバーされたこと
もあって、日本でもオールディーズ
の佳曲として団塊世代を中心に幅広
い人気を誇っています。リリオ盤は
オリジナルにより近く、全編英語で
カバーしていますが(1か所、遊び
の日本語挿入)、平尾盤は間奏の台詞
部分まで日本語訳詞で歌い、後半部
は英語で歌っています。

平尾は、『リトル・ダーリン』の
半年後の同33年7月に『星はなんで
も知っている』(詞・水島哲、曲・津々

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵・松本浦



美洋)を発売。彼女を泣かせたのは
いきなりキッスしてしまった自分の
責任だと反省しつつ、でも彼女だっ
てうれしかったはずなのはお星様だ
って知っている、と語る台詞効果で
大ヒット、まだ「キッス」という言
葉が日本語として使用するにはため
らいがあった時代に、「くちづけ」
ではなく「キッス」を堂々と口にし
たことは当時の若年層に新鮮な衝撃
を与えたことでしょう。

『星はなんでも』の大ヒットで味
を占めたのか、2年後の昭和35年4
月に、平尾としては初の自作自演で
あり、台詞入りの『ミヨチャン』を
発売(実際は作曲でなく俗曲採譜)。こ
ちらは愛の告白ではなく、高校2年
のときの失恋を回想したモノローグ
という設定になっていましたが、こ
れもまた大ヒットします。

ロカビリーブー
ムも平尾人気も去
った昭和39年12月、
『アイ・ウィル・
フォーロー・ヒム』
(映画『天使にラブ
ソングを』主題歌に
使用)で人気絶頂
だった米国歌手の
ペギー・マーチが、



吉田正の門下生だった久保浩のデビ
ュー曲『霧の中の少女』を日本語カ
バーします。

久保盤との決定的な違いは男女と
いう立場の差ではなく、間奏に台詞
を挿入、それも英語だったことです。
日本語の巧みさを買われたペギーは
昭和44年、日本語オリジナル曲の『忘
れないわ』(詞・山上路夫、曲・三木
たかし)を発売、日本語に挟まれて
唯一「I'll never forget you」と歌わ
れる英語箇所は、まるで映画の1シ
ーンのような説得力がありました。

そして昭和49年、作曲家に転身し
ピークを迎えていた平尾昌晃(旧姓・
昌章)はアン・ルイスに『グッド・
バイ・マイ・ラブ』(詞・なかにし礼)
を提供。「Good-bye my love」の英
詞が効果的な洋風ロックバラードに
仕上がっていますが、この曲の聴き

所は、間奏でアン・ル
イスが語りかける台詞
部分にありました。ペ
ギー・マーチばりにす
べて英語で語られます
が、その中「I'll never
forget you」と呟く純
情派時代のアン・ルイ
スの声忘れられませ
ん。